（別紙4）　　平成　21　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0972501035		
法人名	特定非営利活動法人　フロレンス那須		
事業所名	認知症高齢者グループホーム愛里須（りす棟）		
所在地	栃木県那須郡那須町大字寺子乙4402－2		
自己評価作成日	平成22年3月20日	評価結果市町村受理日	平成22年6月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1－10－6
訪問調査日	平成22年4月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者間、入居者・職員間の会話が常に持たれており、いつもどこかで笑い声が聞こえてきています。食事に関しても入居者・職員ともに同じものを食べ、そこにも会話や笑顔がありいつも明るく生活がおくれていると思います。また、外出する機会も多くとりいれてお茶を飲んできたりします。個人ごとのアルバムがあり、毎月ご家族にも送って日常生活の様子をお伝えしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「人を尊重し、人に感謝をし、人に真心で接する」の理念の元、全職員が入居者一人ひとりの笑顔をとても大切にしており、どうしたら笑顔を引き出せるかを常に意識し支援している。その為か、穏やかな日が差し込む共有スペースには入居者とその傍らで支援する職員の笑顔と弾む会話が溢れており、入居者の多くは自分の部屋には戻らずみんなと過ごす時間を楽しんでいる。また、美味しい食事が大切との理事長の言葉の通り、食事には力を入れており、職員が入居者の好き嫌いを把握した上で、週間で重ならない献立を作成し、食材も工夫するなどして、食べやすく調理している。外出時のおやつや自家製ヨーグルトも楽しみの一つである。施設長が看護師ということもあり、入居者の思いを尊重した支援の中にもきちんとした医療面の配慮がなされており、ホームで終末期を過ごさせたいとの家族の希望を受け止め、職員で話し合いやかかりつけ医の協力を得て、看取りまで行った経験のある事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、引き継ぎ時に唱和し、理念を共有化して取り組み励んでいます。	「人を尊重し、人に感謝をし、人に真心で接する」は事業所設立時からの理念であり、全職員が心に留めている他、事務所内にも掲示している。入職当初から折に触れ、理念に照らした支援の大切さや心構えなどの確認に努め、全職員が理念の共有及び実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行事に参加したり、音楽会やイベントに行ったり、ボランティアの受け入れをして交流に努めています。	開所のきっかけは地域に何が貢献できるかとの思いからであり、商工会のお祭りやボランティアの受け入れ、地域住民の訪問など、常に地域との交流がなされている。最近は認知症の家族を持つ方からの相談も増えており、地域になくてはならない存在となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の社会福祉協議会主催の研修会に参加したり、来訪客の介護等の悩み・相談を受けたりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容の説明や取り組み状況の報告をして意見を頂き、改善・向上につなげています。	会議は2ヶ月に1回開催され、サービス状況の報告や、防災の助言など活発な意見が交換されている。また、地域のニーズとして民生委員への認知症の講座が推進会議をきっかけとして実現するなど、事業所内に留まらない発展がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会の勉強会に参加したり、役場に相談に行ったりして連携に努めています。	町の担当職員には、入居者に対する支援方法やホームが介入することができない問題があった場合などには随時相談をしており、対応策や助言をもらったりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目配り、見守りに力をいれ、命が第一であると考え、危険性のある利用者はご家族・職員ともによく話し合い対策をとっています。	身体拘束をしないケアの理解は当然なされているが、主治医を初め、家族、関係者が連携し、必要性を確認した必要最低限の範囲で最短の時間にて抑制帯を利用している入居者がいるため、継続的に家族、関係者と話し合いの機会を持ち身体拘束をしないケアを事業所として取り組んでいる。	主治医を初め、家族、関係者が連携及び合意のうえで行われているが、最小限であっても拘束が行われていることの必要性が確認できる書類の整備や今後も話し合いの中で最適な支援の方法を模索していくことに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ディサービス利用者も含め常に注意してみています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	詳しい情報は把握していないので、今後学習の機会を増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず契約書を読んで説明し、疑問点の有無を確認しながら対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の行動や会話の中から情報を集め職員間で話し合いして反映していくように努めています。	行事や外出等は、本人及び家族の意見を取り入れたものを企画し、実施している。家族の面会時に同席して意向を確認している他、行事や外出時の写真も毎月送付しており、入居者及び家族が希望を表しやすい環境づくりに努めている。また、本人及び家族からの意見や要望等は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時、会議、または業務中に意見交換をしたりしています。	介護や支援方法の統一及び工夫はもとより、申し送りノートの書き方、カーデックスの活用等、ホーム内のあらゆる場面で職員の業務のしやすさ、有効な方法等について、職員も積極的に意見や提案を行っており、運営に反映させている他、改善にも役立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に心がけて努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会への参加をしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会への参加と同業者へも足を運び、質の向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れるまでなるべく多く寄り添ってコミュニケーションをとり、不安に思っていることなどを自然に聞き出せるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話し合いをきちんと行い、どのように過ごしていきたいかなどを聴き、対応していく中で信頼関係ができてきています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような支援を必要としているのか、本人・家族ともコミュニケーションをとり対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にお茶を飲みながら思い出話を聞いたり、時には一緒に仕事をしながら自然と支えあう関係ができてきています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来てくれたときなどに、ご家族・本人と職員が話し合う機会を持ち共有化しています。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方や生活してきた場所との関係が継続できるようにご家族とともに支援してきています。	生家を見に行ったり、面会に来た友人との関係を継続できるよう手紙を送付する等、本人の馴染みの関係を大切にする支援を行っている。また、生活暦やアセスメントシートを活用して馴染みの人や場所との関係継続のきっかけをつくっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の関係がうまくいくように職員が間に入ったりしながら孤立しないように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気持ちよく遊びに来ていただけるようにいつも気軽に話ををしてよい関係が築けていると思います。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からよくコミュニケーションを取りながら本人の気持ちの把握に努め、会議等で検討しています。	全職員が入居者一人ひとりの笑顔をとても大切にしており、どうしたら笑顔を引き出せるかを常に意識し支援にあたっている。その支援を実現する為に本人と職員の相性を考えたり、本人が話易い環境を作ったりと雰囲気作りも大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族から聞いたり、ケアマネージャーから聞いたりしながら、さらに本人ともコミュニケーションをとりサービスにつながるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションの中から現状の把握に努め、職員間での話し合いで共有化し、支援につながるようにしています。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の生活の中から問題点の把握に努め、本人にどのように生活していきたいかをたずねたりしながらご家族とも相談して、さらに職員間で話し合いをしてケアプランにつなげています。	定期的なモニタリングによるプラン変更の他に、職員は常にプラン内容における支援状況を照らし合せ、必要に応じて随時プランの変更も実施している。家族にもプラン内容や要望を確認しており、新しいプラン作成時には参加をしてもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の中での気付きや工夫を常に記録したり話し合いをして活かしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全員で話し合いながら取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを受け入れ、協力しながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は夜間でも往診してくれたり、入院が必要な時はその対応もしてくれます。	協力医療機関をかかりつけ医とする入居者が多く、協力医療機関は昼間の往診だけでなく夜間の往診、入院を必要とする場合の対応なども行っている。協力医療機関以外のかかりつけ医を家族の付き添いで受診した場合には、受診の内容を聞き取り、入居者の病状を把握している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ささいなことでも相談にのってくれ、健康管理がされています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	１日も早く退院できるように医師・ご家族と相談し、またかかりつけ医と情報交換・連携がとれています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には常に連絡をし、職員間でも報告・連絡・相談を繰り返し行い、情報の共有化ができています。	癌で入院していた入居者の退院の際に、ホームへ戻って終末期を過ごさせてほしいとの家族の希望を受け止め、職員間での話し合いやかかりつけ医の協力を得て、看取りまで行った経験がある。施設長と職員の２名が看護師であるが、その他の職員も積極的に終末期のケアを学び対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連携協力体制がとれるように注意を促しています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	担当者が計画を立て訓練をしたり夜間帯でのシュミレーションをしながら災害対策に取り組んでいます。	昨年度の夜間防災訓練では、夜勤者と宿直の2名体制で火元を想定した訓練を実施した。訓練では、職員による避難誘導のシミュレーションで入居者が直接、夜間防災訓練に参加することは無かったが、今年度は、日中に夜間時を想定した避難訓練を実施する予定である。	今までの防災訓練は職員が車いすに乗って避難路の点検をするなどしていたが、今後は入居者を交えた避難訓練を行い、より現実的な避難方法を身につけることに期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づいての対応にこころがけています。	トイレ誘導等は他の人に聞こえないような声かけや、本人のプライドを傷つけないような働きかけをするよう配慮している他、入居者へ強制するような働きかけはせず、職員を代えたり、タイミングを見計らう等の工夫をしている。個人の記録は見守りができる離れたところで記入し、事務所内のロッカーにて保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を大切にし、安心して生活が送れるように支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムに合わせ、その日にしたいことをやっていただけるように支援につとめています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の望むところにいけるように支援はしているが、1か月単位おきに理美容師がきてくれており、その方とお話をしながら髪を切っていただけるととても好評です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食材を切ったり皮むきなどをやっており、また同じものを一緒に食べ、食を楽しんでいます。	職員が入居者の好き嫌いを把握した上で、週間で重ならない献立を立て、食材を工夫して食べやすく調理している。刺身や天ぷらなど入居者が喜ぶメニューも取り入れている。食事に時間がかかる人には早めに食べ始めるなどして、ゆったりとした食事となるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日チェック(水分・食事量)をして状態把握に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアに取り組みできないところは職員が手伝いをしながら支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ、気持ちよく生活が送れるように支援しています。	排泄チェック表から各々の排泄パターンを読み取り、オムツからパット、リハビリパンツへと段階を経て、排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄の自立支援は、全職員の連携と職員による違いがないかの確認を行いながらの支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申し送り時、排便を確認をしたり、毎日ヨーグルトを食べていただいて対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず、また希望があれば毎日の入浴が可能であり、気持ちよく楽しんでいただけるように支援しています。	通常は一日おきの入浴となっているが、希望する場合には毎日の入浴にも対応をしている。独りで入浴が困難な場合には職員２人で入浴介助を行っている。入浴の拒否傾向が強い人には無理強いすることなく声のかけ方、タイミングを計りながら入浴を促している。夏には夜間にシャワーで対応する等、一人ひとりの希望に合わせた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンがあり、その方に合わせて休息していただいたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容がわかるようになっており、連絡ノートを活用しながら一人ひとりの把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯・買い物や調理などその人にあった役割や楽しみをもっていただいて、張りのある生活が送れるように支援しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候をみながら外出する機会を多くとり、気分転換がはかれるようにしています。また、ご家族が面会に来た時に外出したり、季節によって遠出をし楽しめる機会を作っています。	ホームの良いところの一つに「外出の機会が多いこと」と職員が挙げるように、日常的に買い物、外食、行楽地へと外出の機会が多い。買い物に出かけたときに、ソフトクリームやコーヒーで3時のおやつにするなど楽しみ方も工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力と希望に応じて所持していただくことは可能です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望でいつでも電話をかけられる支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく心地よい空間になっており、季節感のあるものを飾ったりしながら工夫しています。	庭の芝生に面した共有スペースは明るく、余裕のある広さの食堂と居間になっている。入居者は日中のほとんどを自室に戻ることなく居心地の良い共有スペースでみんなと過ごしている。訪問時も事務所まで、入居者の笑い声と弾む会話が聞こえてきていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーの設置やソファーでのくつろぎなどで思い思いに過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人及びご家族の希望を最大限に取り入れ、居心地良く安心して過ごせるように工夫しています。	入居時に本人及び家族には使い慣れた布団や鏡台、箪笥、仏壇等、何でも持ってきてくださいと伝えているが、家に帰るつもりでいる入居者にはあえて強制してはいない。その人の「宝物」を入れておく何か一つがあればいいとホームでは考えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	よく工夫しています。		